

# PHD LETTER

## 52

PEACE・HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

1994・9

- ボランティアって何だろう..... 3P
- 各地で研修進む12期生..... 4・5P

PHD運動とは1962年より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事した岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和づくり(Peace)健康づくり(Health)を担う人材をつくる(Human Development)運動を世界中にひろめることを目的として、1981年からはじまりました。

発行: 財団法人PHD協会  
編集人: 草地賢一  
住所: 〒650神戸市中央区元町通5-4-3 元町アーバンライフ202  
TEL(078)351-4892 FAX(078)351-4867  
郵便振替: 01110-6-29688 財団法人ピー・エイチ・ディー協会  
定価: 100円



撮影/日高由美子  
7月22日 10期生セニフィタ(エニ)さんの結婚式にて

インドネシア・ミンカバウの花嫁さん  
頭にのせた華やかなかんむりは  
人の目をさますほどすてき  
このまま座って6時間。  
おめでたいけどたいへんね。

### 農村と都市の格差広がるタイ

6月に約3週間、南太平洋・オーストラリアを訪問しました。パパニューギニアは日程の都合で8期生ヘルベ君だけしか会えませんでした。相変わらず元気で、フィンチャーフェンの山の人々を訪ね、農業指導を続けていました。この訪問で、研修辞退になったネア君の代わりに、ルーテル教会農村開発部長のペノ君を10月に短期研修生として招くことを決めました。

ソロモンでは、研修生のルーク君の村から来年もう一人、ウェルシュマン君を招くことが決まりました。雨期が終わっている時期にもかかわらず異常気象が続き、激しい雨の中、マライタ島からガダルカナル島を経て初冬のシドニーに入りました。そこでは、NGOと政府がどう連携し、市民の国際協力への参画を促しているかを見学しました。93年実施のドイツ・タイに続いて予定する第2回開発協力研修旅行の下打ち合わせのためでした。

7月は3週間、フィリピン、タイ、カンボジアを訪問しました。

フィリピン・ネグロスでは、昨年7期生ドミー君を代表に結成された「KKRISMA」(クリスマ)という草の根グループが、希望に燃えて活動していました。ミミズの養殖、ハイブリッド米(異なる品種をかけ合わせた雑種。優れた面を持つが農薬、多肥料、十分な水などが揃うことが条件となる)に代わる伝統品種マシバグライスによる稲作。この二つのプロジェクトを中心に、ドミー、8期生ネストール君、91年短期生ヘススさん、その妻ジュラニさんが頑張っていました。村長さんも大変関心があるようでした。9期生ジャネットさんは結婚したとの事ですが、今回は残念ながら会えませんでした。

マニラで93年短期生のオリンピアさんに会いました。ガバルドン村で、日本で学んだ保健栄養の知識を活用し、又有機農業の大切さを村人に強調しているとのこと。送り出し団体の責任者からの一言は「日本から帰って自信がついた」でした。

### ボランティアって何だろう?

ボランティア活動が大学入試や高校受験の内申書で重視されたり、「ボランティア休暇」を設置する企業が増えたり、最近ボランティアに注目が集まっています。ところで、ボランティアって何でしょう? 「人のために良いことをすること?」「無料奉仕?」「暇つぶし?」

大阪ボランティア協会の「サマーボランティア」の活動のしおりにはボランティア活動とは、「私たちの生活が、より生き生きとお

7月18日、日本での短期二次研修を終えて同日帰国したプリチャー君とチェンマイで合流。送り出し団体TKBC(タイ・カレンバプテスト会議)と二日にわたる過去10年の交流の評価会を行いました。プリチャー、4期生ウィラット両君、責任者のトンカムさん、チャンチャイさんと2名のKBC農村地域開発担当スタッフ、そしてムシキーから布のグループのリーダー、ベリポーさんが参加。残念ながら4期生ベリヤさんは現在、遠方で生活しているため、5期生コマ君は所用のために欠席。

開発は外からの「カネ・モノ・ヒト」を前提にして重視するという依存体質の強い考え方と、PHDの人材づくりでの交流・応援という姿勢の間の対話が続けられ、まずは村レベルでの実践が継続されるというところで一致点を確認しました。

浅井重郎さん(マクケーン・リハビリテーションセンター農業開発担当)も併せて訪ね、今後の協力を今迄通り続けて下さるようお願いしました。

93年短期生のチャラムサク君(パヤップ大学農村開発研究所職員)も昨年の産消提携研修を活かし、コマ君の村の人と組んで頑張っています。新所長にあいさつ、PHDとの関係の経緯を説明し、協力を確認しました。

東北タイ・コンケンで89年短期生バムルンさんと会い、多忙な彼の要請でそこから約200km北北西にのぼり、ラオス国境のルーイ県の山の寺に一泊。そこで開かれた緊急農民集会に参加しました。

政府を始めとする産軍複合が進められる東北タイの産業化と、それに伴って発生している農村崩壊をどう克服するかが話題でした。バムルンさんは東北タイの4万人の農民が作るSmall-Scale Farmers Assembly(小規模農民会議)の代表として、サイナワンの農民グループは91年短期生トンスクさん達に任せ飛び回っている様子。

この集会の終わりに、サイナワンの村人9名と過去の評価会をしました。激し

もしく、しかも自分だけじゃなくてより多くの人がそう感じるための活動じゃないでしょうか。だから、ボランティア活動を進めるために大切なのは、技術でも、天使のような優しさでも、余った時間やお金でもない。自分自身が人と楽しく生きていこうという、積極的な気持ちだと思います」とあります。

PHDは設立以来たくさんの方のボランティアにより支えられてきていますが、一番の支えは多くの方が、ボランティア協会の言葉にあ

### 草の根の人々を訪ねて

Report from Asia and South Pacific

い農村社会の変化の中、7期生サンコム、9期生サウエー両君とも出稼ぎに出ざるを得ず、村には中高年の農民しか残っていない。しかし、今迄通り日本の草の根の人々、北タイの農民との交流は、是非続けたいとのことでした。6期生ワラヤさんは一児の母として村に留まり、農業のかたわらマイペースで教員になる勉強も続けているとのことでした。



畑の手入れをするソコムさん。

バンコクの12分の1の生活格差に苦しみ、益々崩壊が続いているタイの農村を後に、7月25日、評価に同行した藤野主任主事と別れ、カンボジアに入国。11期生ソコム、ヴァナ君を訪問。両君は帰国後4ヵ月目に入り、少しずつ日本の研修を村人に分かち合い始めていました。

ヴァナ君は堆肥づくりと20羽の肉鳥の養鶏、ソコム君は堆肥を使った野菜づくり、乾期米の苗代づくりのモデルファームを作っていました。両君の協力、パティ郡教育委員会社会教育課、ソコム君の農業センターの協力を得て、JOCS(日本キリスト教海外医療協力会)のポンペン事務所の高橋所長、柳沢保健婦のアレンジを得て、チル・カエウさんを来年の研修生に選びました。彼女は、HEKS(スイスのNGO)の援助を背景に郡レベルで進められる識字教育運動のボランティア。日本では、その教育の中で使われる保健・栄養・農業の研修を深めたいとのことでした。

ポル・ポト派の非合法化による政情不安が始まっているカンボジアに、平和と安定が根づくのを願い、7月30日に伊丹へ帰国しました。

総主事 草地賢一

ような「積極的な気持ち」で関わって下さっている事ではないかと思えます。そして、その「気持ち」が集まったとき、第三世界や私達の社会を少しずつ良い方向に変えていく力になるのではないのでしょうか。

この夏には、大阪ボランティア協会のプログラム「サマーボランティア」に協力して、ボランティアの受入れもしました。ますます社会の要請が高まるボランティア活動とPHD。もっとPHDを利用してみませんか。

### 〈事務所〉

#### ★学校より真面目にボランティア

自身の勉強も兼ねて、研修生の研修に同行、指導の先生の言葉を研修生に分かるやさしい日本語にする通訳(?)をした大学生T子さん。「こんなに毎日朝早く起きたのはひさしぶり」って、大学に行ってるより真面目な生活をしてしまったそう。

#### ★PHDレター発送は口八丁手八丁で!

西は播州(姫路)から1時間以上もかけて事務所まで来てくださった主婦軍団。日本語研修が終わったばかりの研修生にいきなり播州弁で話しかけ、研修生の頭を混乱させる。でもそのバイタリティーとにぎやかさは、山のようなレターを片づけるのには欠かせないのだ。

#### ★遊んでるんじゃないかって…

南北問題の構造を楽しく学び、考えてもらおう、ということ、開発教育のゲームを開発しているこのグループ。夕方どこからともなく人が集まってくると試作中のゲームの出来具合を確認するためのミーティングが始まる。ハタからはただ遊んでるだけのようにもみえる。

#### ★嵐の第2火曜日

なにげない会話から生まれた「ファイリングデイ」は毎月第2火曜日。山のようにたまった資料を整理してファイル。漫才風のかけ合いとともに片づけられる仕事の速さに圧倒される一日でもある。

#### ★第2の人生、出発はスタディツアーから

お仕事を定年退職後、スタディツアーへの参加をきっかけにPHDに足を突っ込むようになった元教師のNさん。あくまでも控え目でありながら、クロスワード、翻訳、バザー出店先の紹介、と頼めば頼むほど多方面に才能を発揮。人間の尽きることない可能性を身を持って示す。

#### ★小学生からシルバーまで

ボランティアする人の年齢層も幅広い事務所。高校生の姉に連れられて夏休みに来てくれたのは小学生。レター発送作業のために事務所同窓会を開く老人大学卒業生。少しでもお時間があれば誰でもいらっしや〜い。♡

### 〈各地それぞれに〉

#### ★切手の天使

書き損じハガキは切手に交換して事務所の通信費に充てます。4月から一度も現金で切手を買ったことがないこの事務所。いつも切手がきれいな頃にハガキ

が届き、とびあがって喜んでます。事務所の手紙を見張っている天使がこちらにいますよ! ありがとうございます!

#### ★お買物もボランティア?

この不況の中、苦しいPHD会計を助けるべく、あちこちのバザーにTシャツなどを買って出資するボランティア数名。「ミイラとりがミイラになった…」とぼやきながらヨソのお店の物を買って帰途につく今日のごころ。いろんな人と出会えるバザーは楽しいよ。



#### ★地域活動のパワーの源は…

地元でパワフルに活動を展開している主婦中心のグループ。研修生の受け入れ、交流会、バザーなど、その活動はとどまるところを知らない。先日はその地域の市制40周年のイベントがあり、国際協力についてのパネルディスカッションに登壇。

このパワーの源は、イベントなどの活動のあとの打ち上げパーティーの持ち寄り手料理の豪華さにあり。噂によれば研修生がお世話になるたびにレポーターが増えるとか。



観光地化?したPHD。

#### ★異人館だけが神戸じゃないよ

和歌山の小学校教師K先生、修学旅行のコースにPHD訪問を組み入れ、30人引き連れ来所。ゴザを敷いての交流会。日本語研修真っ最中の研修生との楽しいひととき。流行る。ニクイ。おススメ。

#### ★当たり送ってくれる〜?

現在イギリスでボランティア活動中のDさん。PHDレターのクロスワードの正解者には何が当たるの? 草生塾無料参

加券? 英国からの旅費は出るの? との返事。離れていても、気にかけてくれてうれしいですネ。

#### ★歩きながらできるアジア紹介

毎年キャンプのユニフォームにPHDのTシャツを採用してくれる東京のOさん。兵庫のEさんから埼玉のYさんへ、そこから広がるTシャツのリレー。「歩く広告塔」は日本全国を縦断するか? 講演でPHDの話聞いたKさん。次々に知人を紹介して下さる。どこまで続くか友達の輪!

皆さんのネットワークにPHDをのせて下さい。

#### ★地元特産でPHD

沖縄からタイツアーに参加したFさん。大阪での他団体との共催行事コンサートに八重山の歌手、新良幸人さんをつないでくれたり、野外ハイキングにバナナの葉っぱを送ってくれたり…その地域ならではのお手伝い、大歓迎です。

#### ★研修生の顔でまけてんか〜

毎年春に行う研修生との交流ハイキング。お昼は研修生による料理。その材料は神戸の金平市場のお店が格安に提供してくれる。8期生レルさんが近所にホームステイしたときからのお付き合い。

#### ★遠く離れていても…♪

夏のプログラム参加をきっかけに高校時代、長らく事務所に出入りしていたT子さん。現在岩手県の看護短大に通っており、文化祭のバザーでPHDグッズの販売に張り切る! その間の通信費、ン千円とか。高額なタイ、カレンの布も理事長さん相手にさばいてしまったとか。

#### ★パン屋で絵はかき

宝塚のパン屋さんではPHDのエハガキが買える、引き続いて近所の八百屋さんでもエハガキが並ぶ。次は肉屋か、魚屋か。

#### ★使い途、イロイロ

学校の中で「開発教育」を広げたい、また地域でもグループを作り、PHDの研修生との交流会など行っている教員のN子さん。中学での集会に使えゲームはとネタを探してPHD事務所にお越し。布を広めるのも頑張ってくれています。

#### ★こんなところで

お仕事でシンガポールにいるMくん。スタディツアーの中継地点として宿探に奔走。仕事はしても…?

第12期研修生の3人は6月中旬に日本語の研修を終えて、兵庫県下をはじめ各地ではそれぞれ研修に励んでいます。日本と彼らの国々との違いに戸惑いながらも、前半の研修を終えて、これからより深い学びを進めようとしています。

# 研修生レポート

## 各地で研修進む 12期生



鶏のエサをやるトンさん

### 農業研修で益々元気

#### トウトウンさん(ビルマ)

農業研修に入りいっそう元気になったトン(通称)さんは、日本語も着々と身につけながら前半期研修に取り組んでいます。毎年ビルマの研修生の熱心さには驚かされますが、トンさんの場合も同様に、農業はもちろんのこと日本語の習得にも一生懸命で少しでも時間があれば指導の方を質問攻めに行っています。牛尾武博宅(兵庫・市川町)～中野宗嗣宅(兵庫・春日町)～吉田吉彦宅(兵庫・氷上町)

トンさんは、養鶏における一通りの技術と経営方法を主な研修テーマとして挙げていますが、養鶏も有畜複合経営の一環として捉えていくことが大事なので、現時点では養鶏のみならず酪農、養豚等様々な家畜を伴った農業を比較しながら学んでいます。

トンさんが牛尾さんに宛てた手紙を抜粋で紹介します。彼の1軒目の研修が終わった時点での思いが読者の皆さんにも伝わるかと思えます。「にほんは、ぎじゅつがすすんでいるけれどもすばらしくない。せかいにのうぎょうをしているひとは、みんなしんせつなことがおなじです。これがすばらしいでした。」

### ソロモンとの違いに戸惑い

#### ルーク・スイファシアさん(ソロモン)

ソロモンから初めての研修生として来日したルークさん。ソロモンと日本の農業の違いに戸惑いながらも元気に学んでいます。

土と緑の会/渋谷富喜男宅・渋谷雅弥宅・谷井正尚宅・谷井良三宅(神戸市西区)～渡辺省吾宅(兵庫・丹南町)～ふえろ村塾(兵庫・小野市)～林業体験合宿(PHD主催行事/兵庫・丹南町)

ルークさんのアノナキナキ村では日常生活に関してはほとんど自給自足でまかなえている土地柄ですが、現在移動耕作式農法(焼畑)から定着式農法に移行しつつある状況にあります。このことから、年間を通じて土地の有効活用をする有畜複合経営(\*)を基本とした循環農法(\*)の考え方を中心に学ぶ予定です。



日本にきて経験した田植え。(ルークさん、右から2人目)

今回、ルークさんがお世話になった「土と緑の会」は今回初めて生産者グループとして

### 離乳食などに関心

#### ラディアエリタさん(インドネシア)

ラッド(通称)さんは保健衛生の中でも、栄養に特に関心を持ち学んでいます。どの研修先でも、彼女の研修に対する姿勢は好評です。

三木市健康課/兵庫県三木保健所(兵庫・三木市)～太陽保育園(兵庫・八鹿町)/兵庫県和田山保健所(兵庫・和田山町)～久保昌子氏(神戸市)～高砂市保健センター/兵庫県高砂保健所(兵庫・高砂市)

保健の研修では、病気にかかり、治療が必要になる前に、毎日の生活のなかでどのような健康管理をしていけばよいかのポイントとなります。

ここから前半期研修として保健所、保健センター等による地域保健の取り組みを学んでいます。1ヵ所目の研修が終わって栄養についてより深く学びたいという希望がでてきました。そこで次に保育園などの研修で、栄養のバランス、必須栄養素等の知識、また、具体的にどのように調理して効率よく摂取していくのかを学びました。特に、乳幼児のた



調理実習をするラッドさん。

めの調理(例えば離乳食)に関心を持っているようです。

これで基本的な栄養についての知識は学んだようなので、これからは衛生面の学習も加えていきます。

三木市の研修中には、市制40周年の大きな行事があり、地元の新聞にもラッドさんの記事がたくさん掲載されました。時々「新聞見たよ」と声をかけられていたようで、少し恥ずかしかったようです。

また神戸の大学生、篠原登子さんが2週間の研修中ずっと同行し、ラッドさん、研修先に好評でした。こんなボランティアも大歓迎です。

ここで提携しているのはプリチャーさんもお世話になった消費者グループ「菜のはなの会」です。

学ぶ側のルークさんも、お世話いただく側も両者が初めてということで、研修開始当初は少々緊張していたようですが、農業の基本である堆肥を活用した土作りについて学ぶことができました。

ところで、ソロモンのお百姓さんは一日5～6時間しか働かないとのこと。「日本の農業はとても忙しい!」と母国との違いにとまどうルークさん。南太平洋の土地柄が、東南アジアからの研修生とはちょっと違ってのんびりペースです。

(\*)有畜複合経営・循環農法=家畜を利用し、有機物が田畑を循環する自然のサイクルを考慮した農法。

## 産消提携システム学ぶ プリチャー・ムアンチャンさん(タイ)

プリチャーさんの今回の研修テーマは「産消提携運動」のシステムとその実践について。それは、農産物を仲介者を入れずに直接消費者に販売することにより、生産者の経済的自立を促す一方、生産者と消費者が共に、食糧・農業について考えていくことをめざす流通システムです。

約2カ月間の研修では、生産者側と消費者側の両方の視点から学びました。同時に前回来日時にもお世話になった井上昌博さんのお宅では再度、堆肥の作り方を学び、技術として確認することができました。



消費者グループで運営法を学ぶプリチャーさん。

生産者からの研修として牛尾武博宅(兵庫・市川町)～岡岡史郎宅(兵庫・福崎町)～青位真一郎宅(兵庫・八千代町)～渋谷富喜男宅(神戸市西区)～丹南町有機農業実践会/原重男宅・小前芳彦宅・酒井菊代宅(兵庫・丹南町)～市島町有機農業研究会/一色作郎宅(兵庫・市島町)消費者からの研修として菜のはなの会(神戸市)～食品公書を追放し安全な食物を求める会(神戸市)～よいたべものを育てる会(尼崎市)

産消提携運動と言っても、その組織、運営形態には様々な方法があるため、研修中は比較の中からポイントを絞っていきました。第一は、生産者と消費者が提携を開始した当時の問題点について、第二にメンバーを増やしていくための啓発方法、第三に具体的な組織運営方法(役割分担、会議運営等)です。

生産者宅に滞在しながらの研修では、農産物の配達車に同乗し、実際の流通過程を学びました。

一方で、消費者側の研修ではそれぞれの消費者グループのメンバーの話し合いの場に参加して学びました。

プリチャーさんが学んだ事柄の中で最も大

切なことは、産消提携運動を進めていくにあたり、生産者と消費者が共に食糧・農業について考えていくための素地をつくっていくことです。

また、彼が実践している農業は前回研修時に学んだ有機農法によるものです。作る時、食べる時に安全で、お金を使わずにやれる方法が必要とされています。今回淡路島モンキーセンターにも出かけ、農業の恐ろしさをあらためて学びました。

具体的にこの産消提携運動が展開されるまでには、相当の時間が必要と思われますが、彼の地道な取り組みに期待したいと思っています。

最後にエピソードを一つ。帰国前のある日、プリチャーさんがタイ米の袋をたくさん事務所に持ってきました。聞けば、この米はタイの中でもおいしくて良いものだとのこと。あるお米屋さんの店頭で無料配付されていたものを持って来て、国に持ち帰ろうとしていたのです。彼の目には日本の米騒動がどんな風に映ったのでしょうか。



#### ベノ・カメオさん

(35才 男性 パプア・ニューギニア) 推薦団体 Lutheran Development Service (LDS)

当初予定していたネアさんにかわり、これまで4人の研修生を送り出したLDSの職員、ベノさんを10月・11月に迎えます。農業指導

### 94年度短期研修生紹介

員を経て86年にLDSに入り、農業・漁業を通じた地域開発のプログラムを統括する立場にあります。現在はレイにある事務所の仕事ですが、出身は8期レル、ヘルペ、9期ラニーさんの住むフィンジャーフェン。

過去4人の研修生の研修先を訪ね、PHDの内容をさらに理解し、今後の活動に役立てること、パプア・ニューギニアで進行する熱帯林伐採を食い止めるために日本の環境保護NGOと連携を深め、情報を収集することを中心とした滞在となります。

関西での研修に加え、四国、関東へも足を伸ばす予定です。

# 研修生とともに体験 第10回草の根生活塾

夏の行事として定着している草の根生活塾が、今年も子供、リーダーなど総勢50名近くが参加し、8月3日から7日まで開かれた。4泊5日の日程のうち、2泊をたんば農文塾で過ごし、まき割りや飯焚きなど昔の生活を体験し、研修生の出身地域の勉強や南北問題の理解のためのゲームを行いました。後の2日は篠山町の東門さん、丹南町の渡辺さん、春日町の中野さん、氷上町の吉田さんの各農家宅に分れて滞在、研修生と共に農業体験を行いました。

また、地元後川小学校の児童や青年団、長寿会の方々と交流もあり、盛りだくさんの5日間でした。

岩田智絵(神戸市 学生)

草の根生活塾(以下草生塾)に参加するのは2回目、高校生の時の私にはお茶を作るのにも木を割り、かまどで火をつけ、何分も空気を吹き込み、やっと湯になる大変さにただ、驚きを感じていました。

今回も、アジアの人と共に文化、生活を自然に逆らわずに学び、いかに私たちの暮らしが便利かを考え直すことができました。

それ以上に私自身はリーダー&食事係になり、多くの事を経験しました。草生

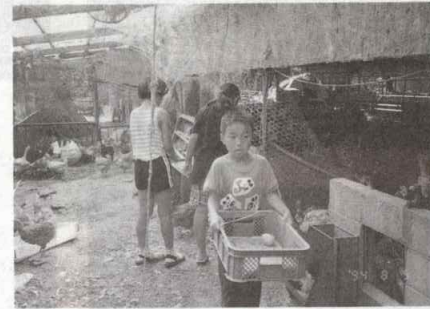
塾では食事係として、以前からアジアの料理がどのような香辛料や野菜が使われているか研究したり、大量の買い出しを綿密にチェックしたのにもかかわらず誤差が生じ物事の計画を立て進行することの難しさを学びました。

農家での2泊の滞在では子供たちのリーダーとなり、鶏の卵集めや、畑の草ぬきや、ご飯つくりをルークさんを交えてしました。人の先頭に立つことの大変さが身に染みしました。

草生塾を思い出として置いておらず、これらの経験を実生活に役立てたいと思っています。

安田有紀子(神戸市 学生)

農業体験発表会の直前、「農業使っていないこと言ったら」(私)「マヤク!!」(けいちゃん)「ノウヤク!!」初めてリーダーとして参加した4泊5日の草生塾はずっとこんな調子であつという間に過ぎ去ってしまいました。リーダー3人子ども8人、計11人は有機農業をやっておられる吉田さんちに2日間おじゃまし、



農業のお手伝い(じゃま?)をさせていただきました。食事はほぼ自炊で、かまどになかなか火がつかず、リーダーだけ農作業に連れて行ってもらえなかったことも…。

トマトの茎を支柱に結びつけたり、にんじんを掘ったり、走り回る鶏の中から卵を探し出したり…リーダーというより自分も子どもに戻って一緒にしゃべってしまいました。

「かなちゃんのかばん何てこんな重いん?」「だってトマト2袋とじゃがいも4袋とたまねぎ1袋入っとうねんもん」「…」こうして我が「しんせんトマトぐみ」はおみやげたくさん持って農文塾に帰って行きました。

やPO(住民グループ)があるらしく、どの人と話をしても前向きな姿勢が感じられた。マニラのアーバンプアーの人達に比べると村の人達は自分達の手で何かを作り出す意欲に燃えているようで幸せそうに思えた。

この旅はこれからの私に必ず何らかの影響を与えるものになるだろう。私もやはり前向きにこの思い出を活用していきたいと思う。

・51号レターの藤野さんの話、とても面白く考えさせられました。  
善家裕子(東京都)

The English version looks very good. It is also for the first time to have the PHD newsletter translated into students language.

(英語版よかったです。研修生の言葉にニュースレターが翻訳されたのはこれが初めてですね。)  
ベノ・カメオ  
(バプアニューギニア)

・クロスワードの答えは「そうせいじゆく」ですね。三林寿子(大阪府)  
—当たりー! 皆さん分かりましたか?



ミーティングをリードするヨリーさん

4時間の旅といっても日本のものとは別物だった。揺れるたびに頭は打ったものの、村の人達の屈託のない笑いに和やかに楽しい旅だった。

去年の夏初めてヨリーさんに会い、日本での研修を手伝った。その時の印象は、やや消極的にも感じられた。しかし日本での研修を終え、フィリピンに帰ったヨリーさんは別人のようであった。日本での経験が具体的に役立つにはまだ月日がかかるだろうと思うが、着実に身になっているのはヨリーさんの口振りや態度からひしひしと感じられた。依然として大人しい人ではあるが、貫禄もてて大いにやる気が見られるようになった。村の検診やミーティングにも参加させてもらった。ガバルドンにはたくさんのNGO

## ヨリーさんを訪ねて

柳口未来(神戸市 公務員)

昨年8月~10月、短期研修生として日本で保健衛生、栄養を中心に学んだオリンピア・トレド(通称ヨリー)さんの村を研修時に同行し通訳としてお手伝いいただいた柳口未来さんがこの7月に訪ねてきました。

一言でいうと、とにかく何もかもが新鮮で私にとって勉強になった。日本以外のアジアの地に足を踏み入れるのは初めてで、これまでスタディツアーの報告などで聞いていたが、まさに「百聞は一見にしかず」で、自分なりのフィリピンを発見することができた。

初めの2日は、マニラのペンションに泊まった。マニラは現大統領のラモスによって観光地化が進んでおり、どこを見ても工事が行われていた。観光バスもよく見かけ、想像していたよりは治安もいいし、それほど怖い町ではなかった。2日目、ヨリーさんを日本に送り出した団体サフルディを訪ねた。大きなNGOで、アーバンプアー(都市の貧困層)の人たちを助けるためにいくつか工芸品の工場を持っていた。

翌日、ヨリーさんのいるヌエバエシーハ州ガバルドン村に向かった。予想はしていたが、体験するとまた違ったものだった。道の舗装があまり良くないため、バスやジブニーは上下左右に揺れ、3、

# PHD NEWS

## 〈会費・ご寄附寄託状況〉

1994年 5月	91件	1,769,180円
6月	150件	2,123,818円
7月	584件	4,496,038円
	825件	8,389,036円

前号でお願いいたしました会員拡大キャンペーンに対し、たくさんの方々にご協力いただき心より感謝申し上げます。なおキャンペーンは9月末まで継続しています。奮ってご参加下さい。

## 〈第8期関西NGO大学 第三世界理解講座〉

9月から毎月1回、1泊2日の連続6回講座で第三世界の問題を学ぶ、関西NGO大学も今年で8期目。今回は、「私にとっての地域、私にとっての開発、私にとっての行動」がテーマ。当会職員の藤野がまとめ役を勤めます。(各回 3500円+1泊2食の実費)

1回目	9/17・18	そもそもNGOとは
2回目	10/8・9	私にとっての開発
3回目	11/12・13	実はこんなに

国際ナショナル  
問合先: 関西NGO大学事務局  
(大阪YMCA国際・社会奉仕センター内)  
TEL: 06-441-5598

## 〈新しい出会いの場を / 東日本研修旅行〉

今年も東日本研修旅行の季節がやってきました。2週間で、関東、中部などをまわり、各地で交流をもち、日本の社会問題とその取り組みを学びます。貴方の町で、交流会・バザーなどを行ってみませんか。開催をご希望の方、出来る限り、ご相談に応じたいと思います。是非お問い合わせ下さい。

時期 1994年11月中旬~12月初旬  
予定 (車にて)

## 〈ワン・ワールド・フェスティバル'94〉

昨年に引き続き、今年もワン・ワールド・フェスティバルが開催されます。コンサート・パネルトーク・第三世界ショップ・エスニック料理の模擬店などを通じて、国際協力をアピールします。もちろんPHDも出店、協力します。是非、遊びにきてね。当日お手伝いも募集中。

日時: 10月16日(日) 10~16時  
場所: 大阪城公園・太陽の広場  
(入場無料、雨天決行)

## 〈第11回になったタイツアー〉

7月の職員出張に引き続き、年末年始はフォローアップ&スタディツアー。7月帰国したブリチャーさんの再度の取り組み、送り出し団体との協力状況をはじめ、コマ、ウィラット、ワラヤ、サンコム、サウェーさんを訪ねます。国内交流も。

日程 94年12月23日~95年1月2日  
10泊11日  
コース 大阪(関西新空港)~チェンマイ~北タイ、カレンの村~東北タイ~バンコク~大阪  
費用 約19万円 定員14名

村の生活体験、布のグループとの交流など盛りだくさん。申込み・問い合わせは、お早めにご連絡ください!



総主事 草地 海外に出て短波ラジオで日本のニュースを常時キャッチ。アパートにテレビのない某職員よりも日本の出来事を知ってたりして。

主任主事 藤野 一年の放浪の蓄積を期待されてか、関西国際協力協議会主催の6回連続講座「NGO大学」の校長センセに、シラガの数だけが肩書きにふさわしいとか。

主事補 小松 上記二人の海外出張のため、本人いわく苦手の講演を連続で3本まかされる。200,50,300人を相手に隠された才能が開花するか、はたまた一人人間サウナ状態となるか。

主事補 吉岡 4泊5日の草生塾のあと1日おいてビルマツアーに。事務所のイスを暖める間もなく駆けまわる。猛暑も夏バテも寄せつけぬパワーの源は何?

主事補 渡辺 もともと暑さに弱いのに今年の夏は特に暑くてダウン寸前。しかし夜になると元気になって新しいコンピューターで一人遊んでいる。早く帰って寝ろよー!

囑託 柳下 引越した部屋が海に近いので今年の夏は海三昧ノとはりきっていたのに忙しくてなかなか行けずつつ。海の家をオープンしてもうけるプランもあえなく挫折。



浅田千秋(西宮市)

ソディーが主催の交流会、どんな人が聞きに来てくれるのだろうか。その人たちにソディーの思いがうまく伝えられるだろうか。そう思いながら繰り返された準備のミーティングでは「豊かさの良し悪し、近代化と伝統の共存、質の良いものを作ることの必要性、我々にできる援助とはどんなものか」などを話し合い、再確認ができたようでした。会には多くの方が参加して下さいました。

- 布の売上げでどうカレンの村が変化したか→昔は学校に行ける子供が40~50%、今は70~80%。布が売れるので若い人も難しい織をおばさんから習う。お母さんたち嬉しい。
- 現金の使い道→子どもの服、文房具、食べ物。農業にもまわしている。
- 現金がなくて困ること→病気の時、特に病院に行く交通費が薬代よりもかかること。
- 布以外の現金収入方法→鶏、豚を育てて売る。

7月18日、ブリチャーさんは短期研修を終えタイに帰られました。また、会える日があるように。

私がソディーのミーティングに参加し始めて一年と少し。その間、村から送られてきた布を見て「今回はこんな色がある。こんな柄もある」と毎回ワクワクしながら見ていました。これらが作られる所はどんなところか?染や織り方も見たい知りたいという思いはつのり一方でした。ソディーでは村を身近に感じようと手紙を送ったり、'93のスタディツアーでは上原真理さんが染料のこと村の人たちのことをいっぱい仕入れてきてくれて、少しずつカレンの村が近づいてきたようです。

そしてムシキ村のブリチャーさんが日本へ来ました。ソディーのメンバーは大喜び。研修のあいまをぬって彼をソディーのミーティングに引っぱり出し、根ほり葉ほりの質問せめにあわせました。そして6月25日にブリチャーさんをまじえた交流会「もっと知りタイ」が開かれました。

新規会員・寄付者ご芳名は、  
個人情報保護のため  
掲載していません。